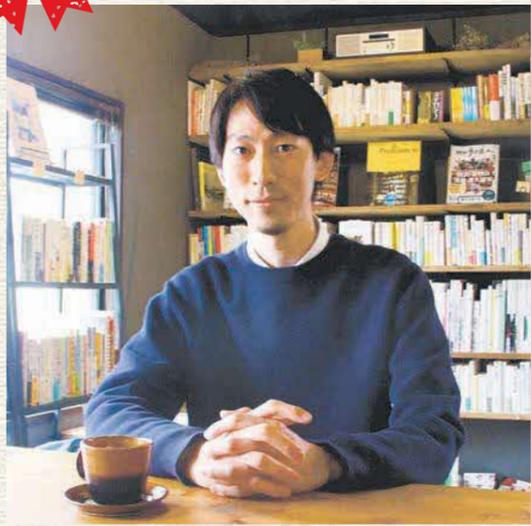




## 暮らしを彩る出合いを紡ぎたい



西埼玉暮らしの編集社 共同代表

おおたけ ゆうすけ  
**大竹 悠介 さん** (市内在住)

大学では登山サークルに所属。登山初心者なのに北アルプス裏銀座コースの縦走に挑戦したのはいい思い出。今も飯能や秩父の低山へ行くことがリフレッシュ。山に咲く花を見たり、コーヒーを淹れて飲んだりして楽しんでいる。

memo

大竹さんの活動内容など詳細はこちら

▲HP ▲Instagram

「5歳離れた兄のあとを追って、雑木林で秘密基地やターザンごっこで遊んでいました」と香り高いコーヒーを淹れながら、語ってくださったのは埼玉県西部地域の編集デザイン会社「西埼玉暮らしの編集社」共同代表の大竹悠介さん。

北秋津小学校、南陵中学校を卒業。クラスのリーダー的存在で、小学校で児童会長、中学校でも生徒会長を務めた。

高校は、県立川越高校へ進学。日々の生活に大きな不満はなかったが、情熱を注げるものを求めている。自分が何をしたいかどう探せばいいか見当がつかず、苦しかった。理解者と出合いがないままに内にこもったような時間を過ごしていた。その経験が、多世代が交流する場づくりという現在の活動の背景にある。

高校では世界史の授業が好きで、政治や文化にも関心があったため、早稲田大学文化構想学部に進学する。現代史や国際関係への興味から、ジャーナリズムのゼミに入り、ドキュメンタリーを見ながら社会問題のディスカッションをしたり、中国人学生と一緒に歴史を学ぶ取り組みを自主的に企画したりした。

大学3年生のときに東日本大震災が発生し、ジャーナリズムを学ぶ学生として被災地へ行った。しかし、あまりにも無力であると感じ、自分にとってのジャーナリズムをもう一度考えたいと大学院に進学する。

大学院ではジャーナリズムのゼミに加

えて、まちづくりのゼミで学んだ。そのなかでフィールドワークとして墨田区にある商店街のプロモーションビデオ制作に携わることになり、チームのまとめ役としてキャスティング、脚本、演出などを担当し、商店主・地域住民・学生の3者で生き生きとした時間を共有できたことが大きな自信になった。そして、ジャーナリズムとコミュニティデザインの融合を考えるようになった。

2015年修士課程修了後、広告代理店に就職。しかし、利益追及を優先する仕事のあり方に疑問を感じ、退社。その後、国際短編映画祭「SSFF&ASIA」の広報や、教育系スタートアップ「さとのぼ大学」の立ち上げに参画。NPO法人シブヤ大学で自治体の地域づくりのプロジェクトにも関わった。

30歳を目前にして、誰かのフォロワーではなく、自らが旗を振るプレーヤーであろうと決意。地域の編集プロジェクト「西埼玉暮らしの学校」を2018年にスタートさせる。2020年には「サタデーブックス」もオープン。

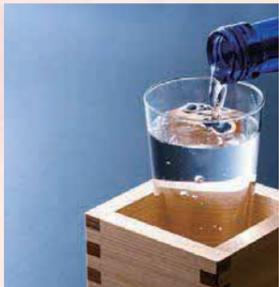
「所沢には面白い大人がたくさんいる。飽和状態のミョウバン水溶液に小さな結晶を入れると大きな結晶ができる。自分はその小さな結晶のような役割でありたい」と話す。

新しい出合いによって、何気ない日常の中で特別な時間が生まれる瞬間に立ち会えることが喜び。高校生のときの自分も喜んでいるだろう。楽しくて、自由で、豊かなまちを目指す大竹さんの活動に今後も注目したい。

(取材：上地)

## 今月のプレゼントクイズ!

6月21日(土)・22日(日) 2025 酒蔵フェス Made in SAITAMA  
利き酒が楽しめるイベント入場券 (2,200円相当×10人)



埼玉県内の人気の酒蔵が一堂に会する一大イベント。日本酒講座をはじめとしたイベントも開催予定。たくさんの種類のお酒の試飲や購入ができます♪見て、知って、味わえるお酒の世界を楽しんでみませんか。

◎プレゼント引き換えの際に、年齢確認をさせていただきます。

● ㈱KADOKAWA  
東所沢和田3-31-3  
とろざわサクラタウン  
☎0570-017-396  
(午前10時～午後6時)

▶ 詳細はとろざわサクラタウン☎をご覧ください。



### ◆今月のクイズ

9・10・11面のクイズを解き、空欄に入る文字を順番につなげると?

### ◆応募方法 (5月10日(土)締め切り)

①クイズの答え②郵便番号③住所④氏名⑤年齢⑥電話番号⑦5月号の感想を記入し、〒359-8501広報課(住所不要)に郵送・市☎(Qプレゼント)で応募

◎当選者の発表は、引換券の発送をもって代えさせていただきます。



▲市☎

## 読者感想文

● 所沢市の未来に関する特集や、子育て支援、地域イベントなど、多岐にわたる情報が掲載されていました。特に、子育て世代に向けた支援策やイベント情報が充実しており、地域での子育てに対する安心感を得ることができました(元町・30代)

● 家事、育児に追われて市政の動きを細かく把握できていないため、分かりやすくポイントごとに端的に説明してあり理解が深まりました(若松町・30代)

編集から● 住みやすいまちになるための総合計画をこれからも市民の皆さんと共有していきます

● 改めて「私が住む所沢はやっぱり

すごい!」と誇らしい気持ちになりました。特に、市民栄誉賞表彰式の内容を読んで、所沢には素晴らしい方がたくさんいることを実感しました(松が丘・20代)

編集から● これからも所沢にゆかりのある方を紹介していきます。応援よろしくお願いします!

● 他県から引越して来ました。所沢市は雰囲気も人も穏やかで住みやすい町だと思います。イベント情報や桜がきれいな場所は他県からきた者として行ってみようと思う情報でとても良いと思いました(中新井・40代)

編集から● 自然が豊かで、都心にも近い所沢です。いろいろなイベントを一緒に楽しみましょう

## 編集後記

● とろっこのインタビューで「サタデーブックス」にお邪魔しました。決して広いわけではないですが、静かで奥行きのある空間でした。「コミュニティ」という言葉はなんとなく遠い存在で、堅苦しいイメージでした。大竹さんの思いを伺ううち、その場を共有していることを楽しみ、新しい出合いを喜び、自由でいられる関係がコミュニティなんだと思ひ至りました。心地よい場所・人・関係を探していきたいと思ひます(上地)

● 本号特集の取材で、坂巻さんの撮影に同行しました。初めは私も緊張しましたが、坂巻さんやスタッフの方々の温かい人柄もあり、終始和やかで楽しい雰囲気撮影することができました(深町)

● 最近、緑茶を水出しで飲むことにハマっている私ですが、本紙9面を読んでたくさんの飲み方があることに驚きました。氷水出しのお茶…暑い日にゴクゴク飲むのが今から楽しみです♪(関)